

## 120歳通信 2016年7月号 (617分の46号)

発行元 444-0124 愛知県額田郡幸田町深溝上池田36 G & G 吉見典生

0564-62-8144 Fax0564-62-9696 E-mail [papi@tms21.jp](mailto:papi@tms21.jp)

URL [www.waraiyoga.pw](http://www.waraiyoga.pw) [www.tms21.jp](http://www.tms21.jp) Face Book [www.facebook.com/norio.yoshimi](http://www.facebook.com/norio.yoshimi)



レイク・テカポ 善き羊飼いの教会

### 2016.5.25～5.31 金婚式 ニュージーランド旅行へ行ってきました

レイク・テカポという村にやってきた。人口わずか370人ほどの小さな村である。ここは空気が澄んでいるから、星がとても綺麗とのこと。天体観測に適した場所ゆえ、世界最南端の天文台が据えられている。レイク・テカポでは、二階建て以上の建築物は許されない。街灯も人間の膝より高く設置してはならないのだ。それくらい星空を大切にしているのだ。この村は、星空を世界遺産とすべく申請している。

この旅行で私たち夫婦をガイドしてくれた人の中に下西夫妻がいた。夫婦は「ニュージーランドで二酸化炭素排出の一番の原因は何であるか」とクイズを出した。その答えはなんと羊のゲップであるとのこと。それは逆に言えばニュージーランドでは二酸化炭素の人為的な排出がいかにか少ないかということである。

テカポ湖を眺める丘の上に小さな石造りの教会がある。1935年にヨーロッパからの開拓民らが建てたもの。のちにテカポ湖によく合うようにシンプルなデザインに変更された。教会といえばステンドグラスだが、この教会にはステンドグラスがない。ステンドグラスより祭壇の向うの窓から見たテカポ湖とサザンアルプスの風景を見る方がずっと素晴らしいのだ。



ガイドしてくれた下西夫妻

## ひと筆書き世界一周旅行を再開します

### English 今を最期に 蝉の声

秋には「ひと筆書き世界一周の旅」が再び動き出す。「島田はがきびとの集い」と「幸田はがきびとの集い」との間に決行する。体が言うことをきいてくれるうちにやらなければ、最終地点南極大陸まで到達することはできまい。旅は私の仕事であり命の燃焼である。やるからには語学を真剣に訓練しようと思っている。この季節の蝉のように、命は今日しかないと覚悟して思い切り勉強に仕事に励みたいと思う。

「ひと筆書き世界一周旅行」は前回の最終地点ケアンズから始める。再びインドネシアの島々を北進しインドシナ半島、中国大陸へと駒を進める。今回は中国を脱出しカザフスタンかタジキスタンを抜けカスピ海や黒海のあたりを通過してアフリカ大陸への通路を模索する。

### タラの木の不思議

タラの木おばさん(下の写真の左)お勤めのタラの木を毎日家族で飲んでいる。体調は妻も私もペロさえもとても良い。ペロは皮膚病が獣医の世話にならずに治った。わたしの付き合いのある癌患者でタラの木の煎じ薬を飲み続けている人は調子が良い。タラの木おばさんの著書『末期ガンからの生還』(750円)を読めばタラの木おばさんのご主人や親戚の方たちが末期ガンからタラの木の煎じ薬でいかに癌を克服したかがよくわかる。私はこの本を癌の友人に買ってもらった。彼は毎日500cc飲んでいると言った。「必ずこの癌を征服してみせる」と彼は自信をもって言った。タラの木おばさんはいまタラの木の栽培をみんなにおすすめしている。タラの木をみんなが栽培して、タラの木が誰でも飲めるようになれば日本の医療費は数兆円節約できるだろうと言っておられる。私もタラの木おばさんにタラの木の苗をこの春いただいて、山畑に数本家庭の鉢に一本植えた。(写真中央)タラの木が使えるようになるまでに3年かかるという。今はタラの木おばさんからタラの木(写真右)を少

ない在庫の中から50袋ばかり仕入れたがもう手持ちが少なくなってきたので、秋の収穫期までは、自分用にとっておくつもりである。どうしてもタラの木や本が欲しい人はタラの木おばさんにFAXして注文するとよい。

(FAX番号 052-903-0303 河村光恵)



### 花にことばを理解する能力があるか？

2つのペットボトルに紙を貼り一方に「ありがとうございます」と書きもう一方に「バカヤロウ」と書いて水を入れ花を入れる。3日後「ありがとうございます」と書いた左の花は元気が良いが、「バカヤロウ」と書いた右の花は朽ち始めた。この実験は同じような環境で2度繰り返した。2度とも同じ結果であった。花でさえこのようであるから、われわれ人間は言葉によって人にも自分にも生かすこともダメにすることもできるのである。先のタラの木の煎じ薬でも自分に「治る治る」と言い聞かせて服用すれば効果は百倍するであろう。実は笑いヨガの原点もここにあるのである。人は幸せだから笑うのではなく、笑うから幸せなのであるということがわかる。意識的に一所懸命笑えば、心を励まし、たのしくさせ、免疫力が強力となり、癌をも克服するというものである。「笑いで癌は治る」と信じる私はこの実験でますます自信を持った。

